

アカデミック・ライティング指導の
計画と実践

アカデミック・ライティング指導の計画と実践 概要

I アカデミック・ライティング指導モデルの整理

アカデミック・ライティングについて、国語科（書くこと領域）を基にした指導モデルを作成した。指導モデルは、通常の「題材の設定」「情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」の段階に「仮説の設定」を加えたものである。この指導モデルに沿って総合的な学習の時間を進めることで、児童は興味をもった題材について「きっとこうだろう」と仮説を立てて調べ、その過程や結果を伝えようと試行錯誤する。そこに教師が効果的に手立てを打つことで、児童の「読解力」や「言語能力」は高まり、発揮されると考える。

II 「鯨っ子学習」について

本校では、総合的な学習の年間70時間を①学級担任の教科の特色を生かした探求課題、②横断的・総合的な探求課題（学年テーマ）、③児童の興味・関心に基づく探求課題の3種類に分けて取り組んでいる。この中で、③児童の興味・関心に基づく探求課題を追究する時間を、「鯨っ子学習」と呼んでいる（図1参照）。この「鯨っ子学習」を各教科で育成してきた「読解力」「言語能力」を発揮する場とし、実践と検証を行った。



図1 「鯨っ子学習」のイメージ

III ラーニングマップの活用について

2年次では、「鯨っ子学習」の時間に、ラーニングマップを活用している（図2参照）。各学年における教科の学びと「鯨っ子学習」等で培われる資質・能力のつながりを明確にするために、各学年の教科等の指導計画を基に、各教科等におけるどのような資質・能力が活用できるかを示したものである。まず、学年でどのような資質・能力が考えられるかについて、到達度目標としての「内容」及び「資質・能力」を確認した。その後、各学年「鯨っ子学習」（第1・2学年は生活科）を中心に、各クラスそれぞれでラーニングマップに取り組んだ。集めた情報を整理してまとめる活動を進めたり、他者に伝えたり協働したりする活動を通して、ラーニングマップに書き加えたりいつでも確認したりできるように児童個人で作成したり、学級で共有したことを提示したりして活用した。

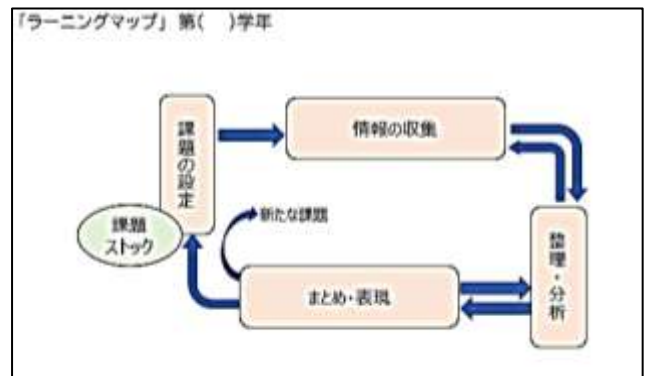


図2 ラーニングマップ

IV 次頁からの見出し

- 1 アカデミック・ライティング指導モデルの整理
- 2 「鯨っ子学習」のすゝめ
- 3 2022 総合的な学習の時間（年間計画）
- 4 「鯨っ子学習」資質・能力デザイン
- 5 「鯨っ子学習」における効果的な手立てと児童の姿（各学年）
- 6 小中連携を見据えた手立てと指導の実際